

## 新ごみ処理施設整備に向けた取組状況について

現明石クリーンセンターは、1999年に供用開始し、建て替えに要する期間を考慮しますと、焼却施設の主要設備耐用年数である15～20年を大幅に超える稼働期間となります。

そのため、経年に伴う老朽化がさらに進むこととなり、これ以上の延命化は、維持費用や故障リスクの増大が予想されるため、2017年度から新ごみ処理施設の建設に向けた検討を進めてきました。

この度、新ごみ処理施設整備の基本的な方針をまとめた明石市新ごみ処理施設整備基本計画（以下、「基本計画」という。）の素案を作成しましたので報告します。

### 1 基本計画（素案）の内容

別紙「基本計画（素案）【概要版】」のとおり

### 2 多機能型施設の方針について

新ごみ処理施設整備に係る多機能型施設の整備方針については、現在、明石市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定に向けた脱炭素化社会の実現に関する審議内容を踏まえ、CO<sub>2</sub>排出削減に向けた環境対策を意識し、以下の方針とします。

- ・余剰電力の活用機能
- ・余熱の活用機能
- ・環境学習・啓発機能（脱炭素を学ぶ学習機能の充実）

### 3 今後の予定

2023年(令和5年)1～2月	パブリックコメントの実施（1か月間）、地元自治会説明
3月	基本計画策定
4月以降	基本設計業務着手

2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	2024 (令和6)年度	2025 (令和7)年度	～	2030 (令和12)年度
基本計画	基本設計・事業者選定			旧大久保清掃工場解体、 新施設建設	供用開始

